

# 中学校社会科歴史的分野における地域の博物館などを活用した教材の開発

—富山売薬に焦点を当てて—

堀内 和直\*

Constructing Teaching Materials of History in Junior High School which Use Regional Museums:

Focusing on the Toyama Baiyaku

Kazunao HORIUCHI

## 摘要

中学校社会科歴史的分野において重要性が指摘されている地域の博物館などの活用について、学習方法では、以下の4つに類型化した。①博物館などで実物資料に接する。②学校で博物館などに依頼した出前授業を受ける。(移動博物館を含む)③学校で博物館などから借りた実物資料に接する。④学校で博物館などの実物資料を撮影したりコピーしたりした資料に接する。(インターネットの資料を含む)次に、学習過程では、以下の4つに類型化した。A:導入段階での課題発見型(事前段階の資料収集を含む)、B:追究段階での調査活動型(問題解決を含む)C:まとめの段階での学習整理型、D:発展段階での発展学習型。そして、富山売薬に焦点を当てた小単元「江戸時代における産業の発達—富山売薬を例として—」の開発を試みた。その結果、多くの生徒が学芸員や実物資料のよさを感じていることが示唆された。

キーワード：中学校、歴史教育、博物館、富山売薬

Keywords : Junior High School, History Education, Museum, the Toyama Baiyaku

## 1. 問題の所在

中学校社会科歴史的分野において博物館など<sup>(1)</sup>の活用の重要性が指摘されている。平成10年改定の中学校社会科学習指導要領では、身近な地域の歴史を調べる活動について、「地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした文化に着目した取扱いを工夫すること。その際、博物館、郷土資料館などの活用も考慮すること。」<sup>(2)</sup>とある。また、解説では「生徒自らの『調べ活動』となるように工夫し、具体的な歴史的事象から時代の様子を考えさせるなどして、『歴史的な学び方を身に付けさせる』ようにする。また、民俗学などの成果を生かして『人々の生活と生活に根ざした文化に着目した扱いを工夫する』ようにし、生徒にとってより親しみのある歴史となるよう工夫する。その際、『博物館や郷土資料館などの活用も考慮する』」<sup>(3)</sup>とある。つまり、博物館などの活用を通して、身近な生活文化を具体的に学んだり歴史的な学び方を身に付けさせたりすることが望まれている。

しかし、同じ義務教育であり博物館などの活用の重要

性が指摘されている小学校に比べ、中学校での博物館などの活用はきわめて少ない。平成15年度小・中学校教育課程実施状況に関する記述によると、教師に対して行われた「博物館や郷土資料館等の地域にある施設を活用した授業を行っていますか」という質問に対して、小学校5・6年生では、「行っている方だ」「どちらかといえば行っている方だ」でそれぞれ2割、3割あるのに対して、中学校1・2年生ではどちらも1割にも達していない。<sup>(4)</sup>また、やや古い資料ではあるが、1992年に鹿児島県薩摩地区内の公立小・中学校の調査によると、社会科において校外での見学・調査学習を実施している学校の中で、郷土資料館などを活用しての見学・調査学習を実施している学校は、小学校の場合には7割以上に上っているのに対して、中学校の場合には2割にとどまっている。<sup>(5)</sup>

そこで、まず、地域の博物館などを活用した中学校歴史教育の現状を整理し、富山売薬に焦点を当てた小単元「江戸時代における産業の発達—富山売薬を例として—」の開発を試みた。そして、この教材を用いた富山大学人間発達科学部附属中学校での授業実践を紹介し、今後の

\* 富山大学人間発達科学部附属中学校

展望についても考察する。

## 2. 地域の博物館などを活用した中学校歴史教育の現状の整理

### (1) これまでの中学校社会科学習指導要領の考察

これまでの中学校社会科学習指導要領<sup>(6)</sup>で、博物館などの活用の記述が見られるのは、昭和26年、44年、平成元年、10年である。昭和33年や52年では記述が見られない。

昭和26年では、古代の単元の学習活動の例で、古代の人々の風俗や生活を考えるための方法とされている。

昭和44年では、文化の指導で身近なものに興味や関心をもたせる方法とされている。

平成元年では、文化の取り扱いで、生活文化の展開を具体的に学ぶ方法とされている。

平成10年では、身近な地域の歴史や文化の取り扱いで、生活文化の展開を具体的に学ぶ方法とされている。

以上を整理するならば、まず、昭和26年では、特定の時代の人々の風俗や生活を考える方法とされていたのが、昭和44年からは特定の時代ではなく身近なものや地域の文化、歴史を学ぶ方法とされるようになった。地域の特性に応じ、さまざまな時代での活用を期待するようになったと言えよう。

### (2) 現行の中学校社会科歴史的分野の教科書の考察

現行の8社の中学校社会科歴史的分野の教科書<sup>(7)</sup>を比較・検討したところ、ほとんどが調査・見学とインターネットの利用についてであった。博物館などの職員に聞くという記述は8社中6社で見られるが、出前授業や実物を借りてくるという記述は1社も見られなかった。

### (3) 地域の博物館などを活用した中学校歴史教育についての先行研究の整理

必修の授業において、若木<sup>(8)</sup>は、江戸の町づくりに大きく貢献した神田上水の様子をまとめて説明するのに、東京都水道博物館の写真資料を借りて授業で活用している。三橋<sup>(9)</sup>は、国立歴史民俗博物館の展示物を見に行った生徒が感じた、縄文人と弥生人の体型や顔つきがなぜ違うのかという疑問をもとに、仮説を設定し、調べ学習や検証授業を通して追究していく。その際、中国・朝鮮半島・日本の石包丁や弥生のムラの復元模型など国立歴史民俗博物館の展示物を活用している。また、日本に伝わった火縄銃はどこのものを調べるために、ヨーロッパ、東南アジア、日本の火縄銃といった国立歴史民俗博物館の展示物を活用している。<sup>(10)</sup>ただ、三橋の実践は、実際の授業がどこで行われていたのかがはっきりとしていないのが残念である。小出<sup>(11)</sup>は有志を集めて行った特設授業で、国立歴史民俗博物館にある南蛮屏風・寛文長崎屏風・江戸凶屏風を写真資料として教室

に持ち込み、課題設定や調査・まとめに活用している。

田邊<sup>(12)</sup>は、江戸時代の百姓一揆の原因について、課題設定から調査・まとめまで国立歴史民俗博物館から借りた複製資料を活用している。佐藤<sup>(13)</sup>は、支倉常長の黒い衣服の絵に傷がある理由について、資料収集や課題設定では、博物館へ行って慶長遣欧使節関係資料などの展示物を観察し、その後の追究・まとめ・発展では、OHPやスライドなどの資料を活用している。庄司<sup>(14)</sup>は、石包丁で稲穂を切る理由について、出前授業で学芸員の説明や石包丁の複製品を使って稲穂を実際切ってみるという活動に活用している。土井<sup>(15)</sup>は、江戸の史跡や博物館に関するパンフレット類をもとに、生徒一人ひとりが課題を設定し、課外の時間を中心に実際に生徒が見学する活動に活用している。酒巻<sup>(16)</sup>は、古墳についてクラス全員から出てきた疑問を生徒がいくつかのグループに分かれて調べ、分からないことをさきたま資料館（埼玉県）、芝山古墳はにわ博物館（千葉県）、近つ・飛鳥博物館（大阪府）にメールで問い合わせたり、ホームページで確かめたりして活用している。

選択の授業において、堤・平岩<sup>(17)</sup>は、出前授業で来ていただいた川越市立博物館の職員とのT・Tで、縄文土器や縄文土器の拓本製作を行う活動に活用している。

田村<sup>(18)</sup>は、巨大古墳の出現についての学習を学校で終えた後、まとめや発展の学習として任意の参加で博物館での教育普及事業へ参加している。また、家での聞き取り調査をもとにもった年中行事についての疑問を、博物館での調査を通してレポートにまとめ、博物館に展示している。調査には学芸員への聞き取り調査も含まれており、博物館などの活用としては注目に値するが、全35時間のうち29時間が充てられている博物館での活動が具体的にどうなっているのかがよく分からない。<sup>(19)</sup>

以上をまとめると、学習方法については、正規の授業では、博物館へ行って実物資料に接して活用する方法、出前授業で実物に接して活用する方法、実物を借りたり写真に収めたりして学校で活用する方法、ホームページを活用する方法があり、課外では、生徒が博物館に行って活用する方法がある。博物館での活動や出前授業では、博物館の職員とのやりとりを行っている実践もある。また、学習過程では、資料収集、課題設定、調べ学習、まとめ、発展学習がある。正規の授業において博物館で実物資料に接する学習方法で、授業中での実践が明記されているものは佐藤にのみあるが、博物館の資料を活用するものの専門家との意見交換をする場面は設定されていない。

## 3. 活用の扱いについての考察

### (1) 類型化の先行研究

江口<sup>(20)</sup>は、まず、学校・学年全体として博物館・資料館の活用を図ろうとするものとして、以下の5つのタ

タイプに類型化している。

- ①社会科の学習活動の一環として、学校の立地を生かして博物館・資料館へ行くタイプ
  - ②特に教科を限定しないで、特別活動、社会見学などの校外学習の一環として、学校の立地をカバーして行くタイプ
  - ③立地の不利をカバーするために学校設置の「郷土資料室」等の代替で博物館・資料館の活用を図るタイプ
  - ④「出前授業」や「移動博物館・資料館」のサービスを生かすタイプ
  - ⑤地域素材を生かした副読本の作成過程において、博物館・資料館のヒトやモノを活用したタイプ
- 次に、学校全体の取り組みとは別に、教師自身が博物館・資料館の活用を図ろうとするものとして、以下の5つに類型化している。

- ①社会科教育の年間指導計画に位置付けて、内容・時期等を想定して活用を図るタイプ
  - ②社会科の学習に限らず校外学習として博物館・資料館の利用を位置付けるタイプ
  - ③学習の過程ででてきた子どもの問題意識を生かして、ケースバイケースで活用するタイプ
  - ④教室での学習成果を確認するための自主的な課題学習として子どもに活用を奨励するタイプ
  - ⑤教師自身の教材研究・開発の一助として利用するタイプ
- 松岡<sup>(21)</sup>は、学習の場所（学校か博物館か）および指導者（教師か学芸員か）によって以下の4つに類型化している。

- ①教師が学校において、博物館から借りてきた資料を使って授業をする形態
  - ②学芸員が学校に出向き、持参した博物館の資料を使って授業をする形態（移動博物館も含む）
  - ③教師が児童生徒を引率して博物館に行き、資料を前にして授業をする形態
  - ④学芸員が博物館で、引率されてきた児童生徒に対して授業をする形態（児童生徒の個人来館も含む）
- また、学習過程によって以下の4つに類型化している。
- ①単元の導入段階において、学習問題を発見するために利用する形態
  - ②単元の追究段階において、事実を探すために利用する形態
  - ③単元の終末段階において、追究結果を確かめるために利用する形態
  - ④単元終了後での発展学習において、児童生徒に利用を奨励する形態

岩本<sup>(22)</sup>は、以下の4つに類型化している。

- ①博物館をぜんぜん利用しない。
- ②遠足や修学旅行の行程に博物館を組み入れる。
- ③社会科（理科）見学の行程に組み入れる。

④日常の学習指導と関連させて博物館を利用する。彼は、①から④に進むにしたがって、学校と博物館との係わり方が深まっていくとし、さらに④には以下の3つがあるとしている。

- A：教師が博物館から資料（実物教材）を借り、教室でそれを使って授業をする。  
 B：博物館で、学芸員（博物館教師）が授業をする。  
 C：教師が博物館で授業をする。
- 佐藤<sup>(23)</sup>は、以下の7つタイプに類型化している。
- A：社会科を中心とした授業での利用  
 B：博物館の利用の仕方に関する指導  
 C：児童が博物館の施設・資料を利用する活動  
 D：「移動博物館」的なものの校内への設置、利用  
 E：博物館への児童作品の提供  
 F：博物館とタイアップした教材づくり、資料づくり  
 G：その他（博物館で行われる行事、催し物への参加など）

そして、この7つのタイプは、『博物館で何かを見る』だけでなく、『博物館で資料を探したり学芸員の話を聞いたりできないか？』『博物館を学習や活動の場に行きたくないか？』『博物館に何かを提供してもらえないか？』『博物館と教材作りを一緒にできないか？』『博物館が学校に来ることができないか』などの発想から生まれたものである、としている。

奥住<sup>(24)</sup>は、1979年から1981年にかけて刊行された千葉県『小・中学校における博物館利用例集』をもとに、以下の4つのタイプに類型化している。

- ①博物館を見学し、学芸員に解説してもらう
- ②子どもの調査学習を中心にして、発表を行う
- ③教師と学芸員の協力教授
- ④博物館資料を借りて教師が教室で授業

（財）歴史民俗博物館振興会<sup>(25)</sup>は、博物館活用の方法として、以下の7つに類型化している。

- ①博物館を見学する
- ②博物館の資料を借りて授業をする
- ③博物館に移動博物館を依頼する
- ④博物館に出前授業を依頼する
- ⑤博物館のホームページを活用する
- ⑥博物館に電話やファックスで質問する
- ⑦展示資料を撮影し、資料として活用する

また、博物館活用の学習過程では、以下の6つのタイプに類型化している。

- A：【課題発見型】（導入段階）  
 B：【問題解決型】（展開段階）  
 C：【調査活動型】（展開段階）  
 D：【学習整理型】（整理段階）  
 E：【発展学習型】（発展段階）  
 F：【資料収集型】（事前段階）

一場<sup>(26)</sup>は、以下の5つのタイプに類型化している。

- A型【課題発見型】（導入段階）：博物館学習→学習回



題→調査活動→まとめ

B型【問題解決型】(展開段階)：学習問題→博物館学習→まとめ

C型【調査活動型】(展開段階)：学習問題→博物館学習→調べ学習→まとめ

D型【学習整理型】(まとめ段階)：学習問題→調べ学習→博物館学習・まとめ

E型【発展学習型】(発展段階)：学習問題→調べ学習→まとめ→博物館学習

小島<sup>(27)</sup>は、イギリスの博物館の学校教育への対応を内容別に大別し、以下の3つの方法があると紹介している。

- ①博物館が直接生徒を指導する。
- ②博物館は情報や資料を提供して、先生が生徒を指導する。
- ③学校へ資料セットを送って(貸し出して)学校の教室で使ってもらう(「アウト・リーチ」)

## (2) 類型化の視点

そこで、3(1)の類型化を参考に、中学校社会科歴史的分野の学習としてより効果を上げるために、類型化の視点を4つ提示したい。

1つ目は、江口の類型化を参考に、社会科の年間指導計画に位置付けて、内容・時期等を想定して活用を図るタイプに限定したい。

2つ目は、松岡・民博の類型化を参考に、学習方法と学習過程に分けて類型化したい。

3つ目は、情報の開放という側面を除きたい。松岡によると、学校と実社会との連携は、情報を活用する側面と開放する側面に類型化され、開放する側面には、実社会に参画、交流、提言、啓発する活動があるとしている。<sup>(28)</sup>そこで、活用という側面に限定し、博物館などの活動に参画、交流、提言、啓発する側面を除きたい。

4つ目は、実物(または、それに近いモノ)に接するという活動に限定したい。森茂<sup>(29)</sup>によると、「博物館活用の意義は、モノを媒介にした体験的な学習による実感を伴った社会認識の深化にある」という。そこで、博物館などへの聞き取り調査のみの活動など実物(またはそれに近いモノ)に接する機会がない活動は活用の類型化から除きたい。

## (3) 本研究の提示する学習方法と学習過程の4類型

3(2)の4つの視点をもとに、以下のように類型化した。

まず、学習方法では、以下の4つに類型化した。

- ①博物館などで実物資料に接する。
- ②学校で博物館などに依頼した出前授業を受ける。(移動博物館を含む)
- ③学校で博物館などから借りた実物資料に接する。
- ④学校で博物館などの実物資料を撮影したりコピーしたりした資料に接する。(インターネットの資料を含む)

次に、学習過程では、以下の4つに類型化した。<sup>(30)</sup>

A導入段階での課題発見型(事前段階の資料収集を含む)

B追究段階での調査活動型(問題解決を含む)

Cまとめの段階での学習整理型

D発展段階での発展学習型

学習方法の①・②は博物館などの職員との関わりがあり、④から①に行くに従って、より大きな効果が期待できるが、活用が難しくなってくる。しかし、社会認識を深めるのに少しでも効果があるならば、学校の実態に応じて柔軟に活用できるよう整理することは有効であると思われる。また、先行研究でも見たように、必ずしも1つの段階でのみ活用するとは限らず、複数の段階での活用もあろう。また、学習過程のDは、生徒に発展的な活用を奨励する観点から、課外での活動も含めることとする。

## 4. 富山売薬に焦点を当てた教材の開発

### (1) 富山売薬

富山は「富山のクスリ」と言われるほど全国的にクスリで有名な地域である。というも、売薬業は、戦前まで富山県を代表する産業であり、平成16年度現在でも配置用医薬品生産額は、富山県が全国シェアの半分以上を占め、富山市だけでも全国の2割以上を占めている。<sup>(31)</sup>

富山売薬は、江戸時代、元禄のころ、富山藩2代藩主前田正甫によってはじめられたとされている。前田正甫は、参勤交代で江戸城に登場した際、城中で急に腹痛を起こした大名に、岡山の医師から富山に伝えられた反魂丹を与えたところ直ちに治り、諸大名はその効能に驚き、領内への販売を懇望し、そこから富山売薬は全国に広がった。<sup>(32)</sup>

売薬人たちは、行商先の国・地方別に組や向寄といった株仲間を作り、仲間内で示談と言われるルールを自主的に定めていた。このことが、旅先での売薬を円滑に継続して行い、富山売薬の発展に大きく貢献した。<sup>(33)</sup>

その他、富山売薬が発展した理由として、反魂丹役所(藩)による保護、先用後利のシステム、良質、多品種の薬の量産体制、海上交通の発達、きれいで豊富な水、冬の副業に乏しいなどが挙げられる。

富山市には、富山市民俗民芸村の売薬資料館、富山県民会館分館金岡邸、廣貫堂資料館など売薬の歴史について紹介した博物館などがいくつかある。<sup>(34)</sup>

特に、富山市売薬資料館は本校より徒歩10分のところにあり見学による調査がしやすい。そこで、これらの博物館などを活用して、富山売薬に焦点を当てた小単元「江戸時代における産業の発達－富山売薬を例として－」の開発を試みた。<sup>(35)</sup>

### (2) 小単元「江戸時代における産業の発達－富山売薬を例として－」の目標と指導計画

小単元「江戸時代における産業の発達－富山売薬を例

として－」では、目標として、生徒に次の4点を習得させることを目指す。

- ①富山売薬が江戸時代に全国に広がった理由について、水などの自然条件や行政・販売システム・交通・きまりの遵守などの社会条件など、さまざまな視点があることを実物資料や学芸員の説明を通して理解する。
- ②富山売薬が江戸時代に全国に広がった理由について、根拠に基づいて自分なりの予想を立てることができる。
- ③富山売薬が江戸時代に全国に広がった理由について、図書室、コンピュータ室で根拠となる資料やホームページを明らかにしながら調べることができる。
- ④当時の売薬人の社会的状況や歴史的背景を根拠に、自分なりに売薬人のルールである示談をつくることができる。

また、本小単元の配当時間は6時間とし、以下のような構成とする。

第1次 なぜ、富山売薬は江戸時代に全国に広がるほどさかんになったのか、予想する。(第1時)

第2次 図書室、コンピュータ室で調べる。(第2・3時)

第3次 富山市売薬資料館で調べ、まとめる。(第4・5時)

第4次 もし、自分が売薬人なら、どんな示談をつくるかを考える。(第6時)

## 5. 富山大学人間発達科学部附属中学校での授業実践

単元全体ではないが「江戸時代における産業の発達－富山売薬を例として－」を教材化し、地域の博物館などを活用した授業実践を紹介する。

### (1) 授業実践の概要

第1時では、富山の薬の実物を提示し、その中に富山の薬の起源となる名前が書いてあることを富山市売薬資料館の資料をコピーしたもので確認した。そして、資料から江戸時代に全国に販売網が広がったことを確認し、なぜ、富山売薬が江戸時代に全国に広がるほどさかんになったのかを予想させた。

第2・3時では、予想をもとに、図書室やコンピュータ室で書籍やインターネットによる調査を行った。

第4時では、資料館での調査を行った。薬の種類が多かったこと、示談と呼ばれるきまりをつくって守っていたこと、きれいで豊富な水があったこと、交通が発達していたことなどを実物や説明を通して確認した。また、第1時でコピーを見た薬袋の実物を見たり、売薬さんの道具箱である柳行李を担ぐ体験をしたりした。

第1時の導入段階、第4時の追究段階での様子は資料1、学芸員からの配付資料は資料2にまとめた。資料館

での調査の前に、学芸員への質問内容や学芸員による進め方について学芸員と事前にFAXで打ち合わせをしたが、その内容についてはここでは紙面の都合上省略した。

### (2) 授業実践の条件について

学習者：2007年本校第3学年選択社会科受講者16人(男子15人、女子1人)ただし、同じ内容で1と2(女子1人含む)の2コマ開設されており、1コマの受講生は8人。

時期：2007年6月～9月

場所：第1時は本校3年4組、第2時は本校図書室、第3時は本校コンピュータ室、第4時は富山市売薬資料館で授業を行った。

アンケート：第3時のコンピュータ室での調査終了後(以下、「事前」)と富山市売薬資料館での調査終了後(以下、「事後」)でアンケートによる回答を求めた。回答した受講生は前後とも16人全員であった。参加者には、アンケートの時期や内容については事前に知らされていないかった。

アンケート内容：課題についての調査に対する資料館の必要性について、「感じる」「少し感じる」「あまり感じない」「全く感じない」の4つの選択肢から1つ選び、選んだ理由も回答させた。また、事後アンケートでは、富山の薬の学習全体を通しての感想を回答させた。

### (3) アンケート結果

A「課題について調べるのに富山市売薬資料館へ行く必要を感じますか。」

感じるを4点、少し感じるを3点、あまり感じないを2点、全く感じないを1点とし、結果を表1にまとめた。

表1 調査の事前と事後の評定値と平均

生徒	事前	事後
a	3点	4点
b	3	3
c	4	4
d	3	4
e	3	2
f	2	4
g	4	3
h	1	3
i	4	4
j	3	4
k	4	4
l	3	4
m	4	4
n	4	4
o	4	4
p	4	4
平均	3.3	3.7
S D	0.87	0.60

事後に「感じる」と答えた生徒の理由(( )内に人数を明記していないものは1人)

### 〈学芸員とのやりとりについて〉

- ・詳しい人がいたから。(2人)
- ・質問できたから。
- ・実際、いろいろな立場からの説明があったため。
- ・実際に聞いた方が早いから。

### 〈実物資料について〉

- ・インターネットと違って、その分野ごとの資料が集まっていたりいろいろな視点から考察が立てやすいから。
- ・売薬についての貴重な資料が多くあって、説明の人もつながることをいろいろ教えてもらえたから。
- ・自分で調べた資料よりとても詳しいことが分かったし、知らない薬の知識をたくさん知れたから。
- ・インターネットでは分からないものを多く調べたから(本物の売薬の袋や、反魂丹の原料など)。

### 〈課題解決について〉

- ・いろいろなことが分かるから。(2人)
- ・ちゃんとした結論が出たから。

B「富山の薬の学習を通して、感じたことを書いてください。」(予想と実際の答えとの関係や訪問を通しての感想など、4人を抜粋)

- ・今まで1つの予想に固執しすぎていた。物事にはたくさん理由があるので、今回の学習はいろいろなことに役に立ちそうです。
- ・詳しい解答が来て、とてもためになったと思った。
- ・行く前とイメージが変わった。いろいろなことが知れてよかった。
- ・本当の理由はたくさんあると知って驚きました。そして、他にもたくさん薬はあったのだから、理由がたくさんあるのは納得できました。

### (2) アンケートの結果についての考察

Aについては、事前の評定平均値は3.3、事後の平均値は3.7であった。対応のあるt検定の結果、 $t=1.69$ 、 $df=15$ 、 $P>0.05$ となり、有意差は認められなかった。

というのは、事後で「あまり感じない」と答えた生徒の理由をみると、「結局行った結果確実なものはないと言われたし、確実じゃなかったら意味がないから」ということであった。歴史の学習における確実の意味を事前か事後に指導しておく必要があると思う。

ただ、事後に「感じる」と答えた12人の生徒の理由をみると、学芸員とのやりとりのよさについて答えた生徒が5人、実物資料のよさについて答えた生徒が4人、課題解決ができたことについて答えた生徒が3人であった。このように多くの生徒が学芸員や実物資料のよさを感じていると言える。

Bについては、多様な見方をする事の大切さや思った以上に博物館などで分かることが多いことに気づいた生徒がいたことが分かった。

## 6. 今後の展望

### (1) 時間の確保について

今回の授業は、選択社会科での実践であった。人数も1コマ8人ずつと少ないので、博物館などへの移動もスムーズで、50分の授業でも何とか対応できた。課題意識をもって授業に臨めたが、時間が短いこともあって、学芸員の説明がほとんどであり、生徒が主体的に課題を解決する場面はほとんど無かった。常設の展示物をじっくり見て調査する活動も必要であろう。

今後は、必修社会科での実践を試みたいが、40人の生徒が往復の移動時間20分を含めて50分で博物館などまで行って追究活動をするのは大変困難である。だから、最低50分×2コマは必要だろう。ただ、教科担任制をとっている中学校の実態を考えると、50分×2コマの授業をすべての担当クラス(例えば、本校なら1学年4クラス)で実施するには、他教科との時間割の調整や博物館などの日程の調整、クラスごとの進度の調整など解決しなければならないことが多く、実施までに大変な努力が必要であろう。

実際、毎年、博学連携の機関誌『やまぶき』を発行し、市教委が中心になって博学連携を進めている埼玉県川越市立博物館での平成17年度の社会科での利用実績は、小学校3年生が市内33校中33校、小学校6年生が33校中31校であるのに対して、中学校は22校中0校であった。これは、市がバスの予算を300万円計上しているにもかかわらず、である。<sup>(36)</sup>

中学校社会科歴史的分野で、博物館などへの見学による活用をさらに普及させていくためには、見学のための時間割の調整など大変な努力をして何が得られるのか、さらに実践を重ねて明らかにしていく必要があるだろう。その際、せめて、50分×2コマの授業を確保し、ゆとりをもって取り組めるようにしたい。ただ、すべての生徒を対象としないなら、発展段階において課外での見学が考えられるだろう。

また、授業の中での活用は時間割などの調整が困難なことも多いので、50分1コマの授業でできる活用例も増やしていく必要があるだろう。そこで、出前授業や、実物を借りてくる授業、実物をコピーしたりインターネットを活用したりする授業の開発をもっと進めていく必要があるだろう。

### (2) 目的の明確化

博物館などを活用することそれ自体を学習の目的とするのではなく、博物館などを活用する目的を明確にする必要がある。なぜなら、社会科の目的の中核は、社会諸科学が発見してきた概念や法則を教えること、つまり科学知の育成にあるからである。

また、2008年告示の新学習指導要領では、言語力の育成が国語だけでなく各教科に要請されている。しかし、言語力の育成には、背景をなす教養知、暗黙知と言われ



る豊かな知識が必要である。科学知の育成においても同様である。社会科においては、博物館などを活用した教養知・暗黙知形成の場を保障することが有効である。<sup>(37)</sup>

このように、科学知や言語力の育成を念頭に置いて博物館などを活用していくことが大切であろう。

### (3) 法関連教育との関連

富山売薬が江戸時代に全国にひろがるほどさかんになった理由の1つとして、きまりである示談の遵守が挙げられる。示談は、藩が決めたもの、相手先が決めたものもあるが、売薬人たちが独自で決めたものもある。そして必要に応じて毎年更新していた。

法関連教育の重要性が指摘されており、社会科においても公民的分野だけでなく地理的分野や歴史的分野での実践も求められている。歴史的分野においても、アメリカでの実践の紹介や法を批判的にみる実践<sup>(38)</sup>が見られる。今後、この方面での開発もさらに求められるだろう。

## 【文献】

- (1) ここでは、博物館法で運営が厳密に条件付けられている「登録博物館」だけでなく、博物館の事業に類する事業を行う施設であり博物館法第29条に規定がある「博物館に相当する施設」や博物館法第3条1項に定める博物館の事業と同種の事業を行う「博物館類似施設」も含め、「博物館など」と記述している。石森秀三『博物館概論』放送大学教育振興会 1999年 15～16頁 参照。後に出てくる資料館も、本論文においては、「博物館など」に含むものとする。
- (2) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説-社会編-』大阪書籍 平成16年 一部補訂 86頁
- (3) 同上 87頁
- (4) 国立教育政策研究所教育課程研究センター『平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査質問紙調査集計結果-社会-』平成17年 53頁
- (5) 松岡尚敏「社会科教育における郷土資料館の活用に関する研究-鹿児島県を事例として-」『鹿児島女子短期大学紀要』第27号 1992年 88～89頁
- (6) 以下のものを参照した。
  - ・文部省『中学校指導書 社会編』大阪書籍 昭和27年
  - ・文部省『中学校指導書 社会編』大阪書籍 昭和46年
  - ・文部省『中学校指導書 社会編』大阪書籍 平成元年
  - ・文部科学省『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説-社会編-』大阪書籍 平成16年一部改訂
- (7) 教科書は以下のものを参照した。(出版社名でアイウエオ順に列記)
  - ・鈴木正幸他『中学社会歴史的分野』大阪書籍 2005年

- ・笹山晴生他『中学社会 歴史 未来をみつめて』教育出版 2005年
  - ・大口勇次郎他『新中学校 歴史改訂版 日本の歴史と世界』清水書院 2005年
  - ・黒田日出男他『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き(改訂版)』帝国書院 2005年
  - ・五味文彦他『新編 新しい社会 歴史』東京書籍 2005年
  - ・峯岸賢太郎他『わたしたちの中学社会 歴史的分野』日本書籍新社 2005年
  - ・大濱徹也他『中学校の社会科 日本の歩みと世界歴史』日本文教出版 2005年
  - ・藤原信勝他『中学社会 改訂版 新しい歴史教科書』扶桑社 2005年
- (8) 若木久造『モノからの社会科授業づくり-教材開発最前線-教室に楽しさと夢を-』日本書籍 2000年 108～121頁
  - (9) 三橋広夫『歴史の授業を工夫する-中学生の疑問を解決する歴史民俗博物館の展示-』財団法人歴史民俗博物館振興会 2003年 9～69頁
  - (10) 同上 70～133頁
  - (11) 小出宗治『屏風絵の中の近世日本と世界-教室で使う歴博展示-』財団法人 歴史民俗博物館振興会 2002年
  - (12) 田邊誠「意欲を高めるための社会科学習のあり方～2学年歴史分野における国立歴史民俗博物館の活用」国立歴史民俗博物館『れきはくにいこうよ 2001 国立歴史民俗博物館 教育プロジェクト活動報告』2003年 85～87頁
  - (13) 佐藤邦宏「博物館利用学習-支倉常長-」『博物館と学校-博物館利用学習事例集-』仙台市博物館 1997年 50～59頁
  - (14) 庄司涉「博物館を利用した作業的・体験的な学習-縄文時代と弥生時代の学習を通して-」同上 70～78頁
  - (15) 土井進「適切な課題を設けて行う学習『身近な史跡・博物館を訪ね、自らの課題を探究する江戸時代の作業的、体験的学習』の実践」『御茶ノ水女子大学附属中学校教育研究発表会研究紀要』1991年 105～111頁
  - (16) 酒巻克太郎「古代までの日本」『さいたま市立教育研究所ホームページ』(2008年5月12日確認) [http://www.saitama-city.ed.jp/03siryo/sidouan/j/j\\_syakai](http://www.saitama-city.ed.jp/03siryo/sidouan/j/j_syakai)
  - (17) 堤貴幸・平岩俊哉「外部指導者との T. T. による選択社会科の実践」『やまぶき 第6集-学校教育のための博物館活用の手引き-』川崎市立博物館 2000年 62～74頁
  - (18) 田村宜也「学ぼう! 博物館の体験的な活動」北俊夫 埼玉県博学連携推進研究会『博物館と結ぶ 新

- しい社会科授業づくり』明治図書 2001年 84～89頁
- (19) 同上 90～93頁
- (20) 江口勇治・森茂岳雄他『社会科教育における博物館・資料館の活用Ⅱ－茨城県内の博物館・資料館を活用した授業づくり－』筑波大学教育学系社会科教育学研究室 1992年 1～4頁
- (21) 松岡尚敏「博物館利用」日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい 2000年 237頁
- (22) 岩本広美「学校教育における博物館利用」『地理』Vol.29 No.10 35頁
- (23) 佐藤佳彦「学校教育における博物館利用学習」前掲書(13) 9頁
- (24) 奥住淳「歴史教育における博物館活用について」『歴史科学と教育』13 1994年 35頁
- (25) (財) 歴史民俗博物館振興会『れきはくをつかおう～博学連携のススメ～』(財) 歴史民俗博物館振興会 2004年 2～3頁
- (26) 一場郁夫「新たな発見につながる博物館の利用方法」大堀哲編『教師のための博物館の効果的利用法』東京堂出版 1997年 153頁
- (27) 小島道裕『イギリスの博物館で－博物館教育の現場から－』財団法人 歴史民俗博物館振興会 2000年 20頁
- (28) 松岡尚敏「社会科における学社連携の類型化」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第81号 1999年 20～30頁
- (29) 森茂岳雄「社会科における博物館活用の可能性」『教室の窓 小学校社会』Vol. 3 2005年 4～5頁。博物館法第2条は、「この法律において『博物館』とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管(育成を含む。以下同じ)し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」であり、(実物)資料を介した活動を行っている機関といえる。前掲書(1) 207頁
- (30) 小川は、国立科学博物館を利用した学校団体の実例をもとに、
- ①発見学習型
  - ②調べ学習型
  - ③まとめ学習型
  - ④探究活動型
- の4つに類型化している。本論文での学習過程の類型化とはほぼ同じであり、興味深い。小川義和「専門的施設と連携した体験的な学習の進め方～博物館の場合～」『教職研修』1月増刊号 教育開発研究所 2001年 99・101頁
- (31) (社) 富山県薬業連合会『くすりの旅BOOK』平成18年 1頁
- (32) 富山市売薬資料館編『富山の薬－反魂丹』富山県教育委員会 平成15年 3～7頁
- (33) 植村元覚『行商圈と領域経済－富山売薬業史の研究』(株) 日本経済評論社昭和52年 175頁、兼子心『富山売薬の旅先における配役の実態－立山宿坊の廻壇配札活動との関連性』富山県 [立山博物館] 2003年 5～6頁
- (34) 前掲書(31) 5頁
- (35) 富山売薬の教材化に当たっては、以下のものも参照した。深井甚三「富山売薬商の薩摩との昆布・抜け荷輸送と廻船・飛脚－列島をめぐる物流・運輸理解のために」地方史研究協議会編『情報と物流の日本史－地域間交流の視点から－』雄山閣 1998年 188～209頁、深井甚三「元禄・享保期の富山売薬、反魂丹売りと香具師－弘前の活動から－」『富山史壇』142・143合併号 越中史壇会 2004年、高瀬保『富山売薬薩摩組の鹿児島藩内での営業活動－入国差留と昆布廻送－』北前船新総曲輪夢倶楽部編「富山の北前船と昆布ロードの文献集」富山経済同友会 2006年 37～60頁、植村元覚「富山藩における売薬製造」宮本又次編『藩社会の研究』ミネルヴァ書房 1960年、北日本新聞社編集局編『海の懸け橋 昆布ロードと越中』北日本新聞社 2007年、『富山県史 通史編Ⅳ 近世下』富山県 1983年、旧高岡高等商業学校編『富山売薬業史史料集』1935年
- (36) 川越市立博物館への聞き取り調査による(2007年8月19日)
- (37) 尾原康光「博物館・郷土資料館の活用」森分孝治片上宗二編『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書 2006年 296頁、岩田一彦・米田 豊編『「言語力」をつける社会科授業モデル』明治図書 2008年20頁参照
- (38) アメリカでの実践については、溝口和宏「歴史教育による社会的判断力の育成(1)－法的判断力育成のための歴史教材例－」全国社会科教育学会『社会科研究』第50号 1999年 211～220頁、橋本康弘「歴史アプローチによって法制度の相対化を目指す法関連教育カリキュラムの構造－アメリカ史プロジェクト『法と歴史における冒険』の場合－全国社会科教育学会『社会科研究』第61号 2004年 11～20頁参照。法を批判的に見る中学校歴史的分野の実践については、奥山研司「歴史的分野『けんか両成敗って正しい?～封建時代の法について考える～』橋本康弘・野坂佳



生編『“法”を教える身近な題材で基礎基本を授業する』明治図書 2006年 64～73頁参照。

## 附記

本研究は、日本社会科教育学会第57回全国研究大会（埼玉大会）で発表した内容を一部加筆・修正したものである。また、平成19年度科学研究費補助金（奨励研究）の研究課題「中学校社会科歴史的分野における地域の博物館などを活用した教材の開発と実践」（課題番号19904001）の成果の一部である。

（2008年9月1日受付）

（2008年11月5日受理）

資料1 小単元「江戸時代における諸産業の発達－富山売薬を例として－」の授業記録

1 実施 富山大学人間発達科学部附属中学校 3年選択社会1  
 2 単元の展開 (全6時間中1・4時間のみ)

次時	教師による指示・発問	教師と生徒の活動	生徒の反応
第1次 富山の薬の問題把握	1 1/6 1 今日から富山の薬について学習します。富山の薬を作っている会社で知っているものがありますか。 2 これが、富山市内にある製薬企業です。何社ありますか。 3 飲んだことのある薬はありますか。 4 資料の中に配置家庭薬という言葉がありますね。どんな薬か知っていますか。 5 この配置家庭薬に関する資料を見ると、富山は、現在、全国でトップクラスなんです。 6 この2つの資料から、みなさんがもっている富山の薬に対するイメージをワークシートに書いてください。イラストでもいいです。	T: 発問する S: 答える  T: 資料を配付し、発問する S: 答える T: 発問する。 S: 答える。  T: 発問する。 S: 答える。  T: 資料を配り、説明する。 S: 説明を聞く。 T: 指示する。 S: ワークシートに記入する。	・ 広貫堂。  ・ 52社。  ・ ないが、ズバリ、ケロリンは見たことがある。  ・ 箱にクスリが入っている。定期的に来る。使った分だけ払う。売薬さんが売っている。高い。  ・ 配置用生産額は1位です。ごいと思っていたけど、(先生に質問して分かった) 普通の8位とていうのは思ってたより低く、300年の歴史では薬の生産が1位なつた数とは9.8箇所少ないんだとした。全国的に少ないこと高そう。苦そう。飲んだこと効かない。なじみがない。よく効きそう。効き目が強そう。パッケージが古くさい。 ・ 反魂丹。伝統に多くの種類の会社名が出てこない。 ・ ほとんどの薬がパッケージが古たよく、薬局に売っているのほとんど分らない。 ・ 漢方系の薬。あまり知られていない。退化中。  ・ 昔あったけど、今はない。こんな赤い箱ではなくてプラスチックのやつならある。
	7 実は、こんな箱、家にありますか。	T: 置き薬を入れる箱を見せる。 S: 箱を見る。	
	8 では、箱を各グループに配りますので、中を開けてみてください。薬が薬袋に入っていますね。	T: 指示する。 S: 箱の中を開けて薬の入った薬袋を見る。	
	9 その中に富山の薬の起源となる薬の名前が書いてある袋があります。どれでしょう。	T: 発問する。 S: 答える。	・ 反魂丹。
	10 これは江戸時代の薬袋を拡大してコピーしたものです。何と書いてありますか。	T: 発問する。 S: 答える。	・ 反魂丹。
	11 反魂丹の起源については伝説があります。誰でしょうか。	T: 発問する。 S: 答える。	・ 前田何とか。
	12 前田正甫の説明。しかし、これはあくまでも伝説ではっきりしたことは分かりません。元禄のころから富山の薬が全国に広がったことは確かなようです。	T: 江戸城の写真を提示し説明する。 S: 説明を聞く。	・ 江戸城で大名が腹痛を起こして、反魂丹をあげたら治ったという話を聞いたことがある。 ・ 何だ、伝説なんだ。
	13 1844年になると、このように全国に富山売薬の行商人が行っていることが分かります。	T: 1844年の資料を提示し、説明する。 S: 説明を聞く。 T: 指示する。 S: ワークシートに書く。	・ 伝説によって富山の薬は効くのではないかとなつた時は全国で何かの病気が広がり、薬を飲ませるとその病気が治って広がっていった。 ・ 富山の薬が当時はやっていた病気によく効くものだったから。 ・ 宣伝
	14 では、なぜ、富山の薬は、江戸時代に全国に広がるほどさかんになったのでしょうか。ワークシートの下に課題を書き、予想を書いてください。		

		<p>15 では、次の時間を、予想を確かめる調べ学習を行います。</p>	<p>T：説明する。 S：説明を聞く。 答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬草が手に入りやすかったから。よ</li> <li>・富山の他県から注文がきたり、</li> <li>・勤交の代時に、薬を運んで来た</li> <li>・参宿場先で、大がらに売って</li> <li>・ついでに、大がらに売って来た</li> <li>・はかばかに売って来た。風土や食</li> <li>・実際によくなったから。風土や食</li> </ul>
<p>第3次 4 6 問題解決</p>		<p>生徒の質問・反応</p> <p>学芸員によろしくお世話になってます。</p> <p>この分科の授業は、おもしろいと思います。</p> <p>（正伝） 浦正伝は、おもしろいと思います。</p> <p>（懸帳） 懸帳は、おもしろいと思います。</p> <p>（袋） 袋は、おもしろいと思います。</p> <p>（薬の材料） 薬の材料は、おもしろいと思います。</p>	<p>発問と指示・強要のついでに、おもしろいと思います。</p> <p>浦正伝は、おもしろいと思います。</p> <p>（懸帳） 懸帳は、おもしろいと思います。</p> <p>（袋） 袋は、おもしろいと思います。</p> <p>（薬の材料） 薬の材料は、おもしろいと思います。</p>	<p>・分からない。</p>





書いこすいにあさ取、内、れ、まどどて  
 科でむけがよいは、談、け、決、た、知  
 教つ読けがよいは、談、け、決、た、知  
 使をわとい書こ示、す、口、毎、こ  
 けが料いこなで、の城、す、口、毎、こ  
 わな史しうれ書つ場所山で帳示。中  
 るんう厳い乱文つ場が帳示。中  
 すみいらかい感のがはあ。さん談ロす。ま  
 りとうかい連いうので松いす。ま  
 た書こるさ帯うのてさ。ま  
 っ科られだ連いうのてさ。ま  
 返教かわくでうい示屋のとまてよ。山  
 くりた言て内ことる談虎す。ま  
 っく。らい間。談あ村す。ま  
 っく。らい間。談あ村す。ま  
 ひっすか聞仲ね。示竹で含で読い  
 ば、使い相とは、す場所い、だ帳回て  
 べが違。こにどつをたら談ちじま  
 れしんす。中1担だつた示持応決  
 かつあん事のその分行く人が況細  
 見、ぜ大山。がと帳。しで者の状か  
 くらとに歌す。あ場す磨ち任そか  
 しか書常和ま。懸で播た責年の  
 新だ科非。り決す。めと分を毎く？  
 が。教がねあるまき決津自れ。行く  
 料もるとよてすりり撰もこすへい

奥州？今でも売薬さん同土取り決めがあります。守っていた  
 だかないと商売をやめてもらうことになりす。

こういものは、大、阪と江、戸の薬種買い付所けで吟味されて  
 から運ばれてきた、ます、の、山、藩、は、こ、の、薬、種、の、買、い、付、け、の、買、い、付、け、が、う  
 まくいってましたと言われ

〈きれいつ豊富な水〉  
 もう1つ薬作りやすい環にあったのが、です。が、それ、は、何、で、し、  
 は、う？工業いっ必要あるの？水が、今、でも、い、け、な、い、ま、い、づ、く、れ、  
 た、う、す、ん、で、す、清、潔、な、い、け、な、い、富、山、の、水、車、小、屋、が、あ、る、の、で、  
 だ、う、き、り、し、て、い、い、は、水、車、小、屋、が、あ、る、の、で、  
 った。川沿いに

それ、も、大、事、そ、れ、も、広、ま、る、理、由、の、1、つ、だ、っ、た、ん、で、す、よ、水、が、  
 であつた、う、ご、い、く、ん、と、神、通、り、の、水、車、小、屋、が、あ、る、の、で、  
 信、仰、し、て、い、い、は、水、車、小、屋、が、あ、る、の、で、  
 が、あ、る、の、で、

〈交通の発達〉  
 海だね。も、船、で、港、ま、で、容、易、に、荷、物、を、運、ぶ、こ、と、が、も、し、よ、く、  
 ね、こ、そ、し、た、ら、海、を、ま、で、出、た、い、た、人、も、い、ま、す、が、も、し、よ、く、  
 体、が、北、前、船、自、体、を、持、っ、て、い、た、の、で、

廻船問屋、森家もあるよね。今で言うところと港灣運送ですよ。ね。  
 陸運もやるけど海運。水でそれだけ出ると違う方向で  
 考えてみよう。

〈柳行李を担ぐ体験活動〉

重ねていると、2、30キロある。ここ重ねてある状態が、  
 れです。仕切っ、これをおぶ、これは、さ、ん、は、商、売、の、行、っ、た、こ、ん、  
 て、三、番、目、に、は、回、収、し、た、の、で、す、こ、う、や、っ、て、担、ぐ、だ、か、ら、こ、う、い、う、  
 うに5段になって

このぐらいのを背負って、一日30件ほど回ります。

これで一日中歩くんです。

当然です。バイクとか自転車とかが出たら、それを2か月ぐ  
 たいたい続ける商売なら、これ、を、年、に、2、回、続、け、る、お、父、さ、  
 んが1年に半年ぐ

これを本明に担いで行ると、た、人、が、い、る、ん、で、す、こ、れ、1、つ、で、歴、  
 史を証する。お、ま、い、さ、い、の、で、あ、る、と、同、時、に、売、薬、の、材、料、な、る、ん、で、  
 くれ、を、み、な、け、な、い、か、ら、お、ま、い、さ、い、の、で、あ、る、と、同、時、に、売、薬、の、材、料、な、る、ん、で、  
 くれ、を、み、な、け、な、い、か、ら、お、ま、い、さ、い、の、で、あ、る、と、同、時、に、売、薬、の、材、料、な、る、ん、で、  
 くれ、を、み、な、け、な、い、か、ら、お、ま、い、さ、い、の、で、あ、る、と、同、時、に、売、薬、の、材、料、な、る、ん、で、

- ・奈良とか京都。
- ・奈良と大阪と京都の間じゃない。
- ・和泉は奥州？

- ・富山は薬が作りやすい環境だったのですか。

- ・知らないよ。

- ・海。

- ・森家。

- ・その中に何があるんですか。

- ・(担ぐ)

- ・(担ぐ) うわー。

- ・歩くんですか？

- ・(担ぐ) おー。

- ・(担ぐ)

なぜ富山の売薬は全国に広まったのでしょうか？

（二代富山藩主前田正甫が江戸城で大名を薬で助けた伝説）

様々な方向からその理由を考えてみよう 薬が売れ続けるためには何が必要だったのだろうか

- ・薬…反魂丹はじめ様々な薬、薬種
- ・自然…海・川・道、災害
- ・政治経済…「富山第一の産業」、財政難、役所
- ・人…雇用、結束
- ・その他

<示談<sup>じだん</sup>> 様々な種類の示談＝命令、法、ルール、協定

自主的に売薬人から、あるいは富山藩や商売先の藩からの達しにより、  
旅先や商売などの状況に応じて、毎年改変され、追加も作られるもの

- \* 藩（町奉行・反魂丹役所）から売薬人へ通達されるもの
- \* 組・向寄内の売薬人同士のもの、商売先の範囲の分担（報告のため藩へ提出される）
- \* 商売先の土地の仲介人・商人と、富山売薬人と取り交わすもの

示談には、どのような項目があるでしょう？ それはなぜ必要なのでしょう？

（例） 奥中国組 追加示談帳（毎年連人の者へ読み聞かせるよう命令された示談）

- 1、商売先までの街道筋で、通行人を相手にせず、喧嘩口論<sup>けんわくろん</sup>など起さないように。  
どの街道筋にも仲間の得意先があるのだから、自分の得意先と同様に考えること。
  - 1、旅先で仲間は一層仲良くし、各地の大商人や、特に同業者と親しくしてはならない。
  - 1、宿では、飯代など支払はきちんとし、実名で呼び合うこと。
  - 1、医者のような振舞は禁止。これは名産の薬のありがたさを理解していない、反魂丹商売人にあるまじき行為である。
  - 1、旅先で人手が足りないからといって、現地で人を雇ってはいけない。
  - 1、賭け事・宴会、また賭けのない碁・将棋、小唄・浄瑠璃なども禁止。派手な服装も堅く禁止。
  - 1、旅先では親方に従い、別宿でも挨拶すること。商売の意思伝達をきちんとし、支障が出た場合は親方たちに必ず相談すること。
- これらの条々を、毎年春の寄合の時にすべての連人に読み聞かせ、証文として判を押させるよう、聞き入れない者や守れない者は旅出を差し止める。

寛政12年(1800)庚申 閏4月4日 当番年行司

このこと、心得違いのないよう厳重に守らせること。

閏4月4日 町吟味所 当番 五兵衛・正兵衛・伝助  
惣仲間共へ

『富山売薬業史史料集』（昭和10年 旧高岡高等商業学校編纂）より  
内容は一部省略、まとめてわかりやすく訳してあります